

令和3年度自己評価結果公表シート

教育理念

- 心身共に調和のとれた『文化人』の育成
- 平和を愛し、世界の中で活躍する『国際人』の育成
- 自然と共生し、地球に生きる『自然人』の育成
- 様々な「もの」や「こと」に興味関心を持ち、主体的に学び続ける『学人』の育成

教育目標

- 自分のことを大切な存在として愛することができ、他の人の事も尊重し、一緒に生きていける人に
- 伝統や文化を大切にし、世界で活躍できる人に
- 自然の営みに畏敬の念を抱き、生かされている自分に感謝し、自然と共存しながら生きていける人に
- やりたいことを追求し、自分らしく心豊かに生きていける人に

1. 令和3年度、重点的に取り組む目標・計画

自己点検・評価の結果および学校関係者評価、保護者アンケート等も踏まえ、以下について重点的に取り組む

- (1) 子ども達の育ちに基づいたカリキュラムの検討を行い、教育・保育の充実を図る。
- (2) 子どもの気づきや興味関心を引き出し主体的な遊びが広がるよう、環境を整える。
- (3) 園の教育・保育の思いや、取り組み内容、子どもの姿を写真等オンライン配信システムを使い、可視化して保護者に伝え、理解を深め、共有できるようにする。
- (4) 園の目指す教育と保育への思いを職員が共通に理解し、共に力をあわせることができるよう、園内研修、会議を充実させる。
- (5) 自園を多視点で客観的に見直し、職員同士の共通の理解を図り、課題を明確にし改善に努める。

2. 評価項目と取り組み状況

評価項目	取り組み状況
(1) 子ども達の育ちに基づきカリキュラムの検討を行う。カリキュラムの更新改善を継続し、教育・保育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・毎月全体会議を行い、次月の園全体の取り組み目標を明確にし、教職員が共通理解ができるように取り組んだ。学年間の連携を図ることが出来るよう、学年の取り組み状況をテーマごとに発表しあったり、教職員からの提案によるテーマに基づいて意見交換をするなどし、それぞれが積極的に会議に参加し、意識を高められるよう取り組んだ。・毎月カリキュラム会議を学年ごとに実施し、子どもたちの発達や興味関心に則して次月の保育が行えるよう話し合い、カリキュラムの更新、改善を行なった。・保育者は全体会、学年別カリキュラムを元に、週案、日案を作成し実践する。その後、実践、反省、課題解決を次への保育にいかし、PDCAサイクルを意識しながら改善に生かした。

<p>(2) 子どもの気づきや興味関心を引き出し、主体的な遊びが広がるよう環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気づきや興味関心を引き出し、主体的な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整えた。そのために、保育者が子どもたちをよく観察し思いの把握に努めると共に、子どもが自ら興味を持ち取り組めるよう環境の設定に様々な工夫をした。 ・子どもがそれぞれの興味や発見、気づきなどを発表し合ったり話し合ったりする時間を持ち、子ども達からの発信を大切にできるようにした。子どもたちの興味や関心が広がるよう、保育者同士も考え話し合う時間を持ち、環境を整えられるように取り組んだ。
<p>(3) 園の教育・保育の思いや取り組み内容、子どもの姿を写真等オンライン配信システムを使い、可視化して保護者に伝え、理解を深められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で園に保護者が来る機会を持っていないことから、活動の様子を写真やコメントを交えて可視化したものを、オンライン配信システムを使い配信した。そのことにより、子ども達の姿、活動の内容、教育・保育活動の思いの理解をしてもらえるよう、また、家庭で子どもと共通の話題で話ができる機会を持ってもらえるように取り組んだ。
<p>(4) 園の目指す教育と保育への思いを職員が共通に理解し共に力をあわせることができるよう、園内研修、会議を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修・会議を通じ、思いの共通理解をはかり、思いを実現させるための保育の実践について共に考える機会を持つよう取り組んだ。
<p>(5) 自園を多視点で客観的に見直し、職員同士の共通の理解を図り、課題を明確にし改善に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のアンケートなどから、取り組める事柄に対して話し合い改善を図れるようにした。 ・園外の研修等で、他園教職員と意見の交換をし、客観的に自園について考えられる機会を持った。 ・他園教職員と意見の交換をし、教職員が客観的に自園について考えられる機会を持った。

3. 総合的な評価結果

令和2年度に引き続き、感染拡大防止、感染症予防の対策に細心の注意を払いながら過ごす一年となった。制限のある中でも子ども達の育ちに及ぼす影響を最小限にできるように職員間で話し合い、できることやその方法についての検討を重ねながら教育・保育活動を実施してきた。新型コロナウイルス対策のもと出来得ることを考え検討する中、子ども達の育ちにとって本当に必要なことは何か、そしてその育ちを実現する方法は従来通りの形でなくても行えるということに気づけた一年でもあった。今後の教育・保育につなげていきたいと考えている。

また、保護者の方へそのような取り組みの説明を丁寧に行うことを心がけ、一定の理解と協力を得ることができたと感じている。

職員が園の思いを共通理解し、教育・保育活動につなげていけるよう取り組んできた。日々の教育・保育実践について職員間で発表し、課題について話し合う機会を持つことで、新たな視点を持つことができ子ども達への保育に生かすことができていると感じる。

子どもの主体的な学びについては、保育者が子どもの興味や関心に注意を向け思いの把握に努めることを大切にしながら、環境を整えるための工夫を重ねることができた。子ども達の気づきや思いを伝え合える時間や話し合いの時間を大切に保育を行うことで、「他の子どもの思い考えを知ることができる」「子ども自身が新たに考えるきっかけを持てる」「違う

考えや思いも受け止めることができるようになる」につながる姿を見ることができた。保育者が答えを簡単に伝えるのではなく、子ども達の興味や関心が広がり「自分たちで考えよう」「調べてみよう」と思えるように保育者同士も考え話し合う時間をもち環境を整えられるよう、今後も取り組んでいきたい。

保護者の方に「活動への思い、教育・保育活動の様子を理解してもらおう」「家庭で子どもと共通の話題で話ができる機会を持ってもらえるようにする」ことを大切に、写真やコメントの配信を行い取り組むことができた。それらを通じ、保護者アンケートなどから「園の教育・保育活動の思い」や「子ども達が活動を通して興味や関心を広げていること・伝え合うことで互いの理解を深めていること・それらの活動が自分の思いや考えを持つ道筋になっていること」等の理解をしてくださっていることが伝わり嬉しく感じている。一方で、配信を目にされていない方もあるので、今後の課題としていきたい。

とよなか文化幼稚園では、保護者の方にも園に関わっていただきたいという思いから、保護者後援会や園活動に参加する機会を設けている。保護者へのアンケートからは「保護者会や園の活動へを通じ、子どもだけでなく保護者同士も親しくなることができること」「保護者が親しくなることで、子ども間でのトラブル等の出来事に対しても互いに声をかけやすくなっていること」「困った時に助け合うことのできるネットワークができて心強く感じていること」などの良い面を感じておられると知る事ができた。反面、新型コロナウイルス感染症や保護者の就労などにより、教育・保育活動、保護者後援会の活動等に保護者が参加する機会が以前のようには持ちにくくなっている。どのように園や子ども達の様子を伝えていき、保護者の園理解を深めていくか、保護者間の繋がりをどのように作っていくかということが課題となっている。

令和3年度もコロナ禍により、不安や心配の尽きない1年であったが、「みんなの先生でみんなの子どもを」（職員皆で子ども達を見守り育ちを支える）という当学園の思いを大切に、様々な視点から一人ひとりの子どもの課題をとらえ、それぞれの今ある姿からの一歩前進を目標に保育に取り組んできた。また、園に関わる人皆の安全と健康を守るための園の考えや対応について、保護者も理解し対応に協力してくださった1年であった。子どもを育てるということについて、「同じ思い」を持ちながら保護者と協力し合う事ができたことは、子どもの育ちに良い影響を与え大変ありがたく感じている。

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルスへの対応が必要であるが、幼稚園と保護者、また保護者同士が子どもを中心にして良い関係が作っていけるような活動や方法を改善し学び続ける幼稚園を目指したい。

令和5年3月
とよなか文化幼稚園保護者

令和3年度 学校評価について

この度は学校関係者評価委員会に参加させていただきありがとうございました。
園の教育理念に基づき、教育目標を達成すべく先生方の日々の熱心な取り組みを、様々な資料を交えながらお話を伺うことができ、改めてとよなか文化幼稚園の思いを理解させていただく大変貴重な時間となりました。

○毎月の全体会議、学年別カリキュラム会議の内容に基づきながら、子供の育ちに合ったカリキュラムを月案、週案、日案で目標を明確にし、保育に取り組まれています。実践するだけでなく、評価、反省し、次の保育に生かすための課題解決を、担任の先生、学年の先生方、園長先生に至るまで把握されており、より良いPDCAサイクルへの改善を意識し、常に保育・教育の質の向上に努めておられます。

○幼稚園での活動や遊びを通して子供たちは色々なことを感じ、考えながら成長させていただいています。

1人1人の思いを大切にし、把握して下さり「やってみたい。」という気持ちにも寄り添って下さり、こどもたちの興味や関心、発見、気づきなどを発表したり話し合ったりする時間を大切にしてくださっています。

○コロナ禍で、園での子供たちの姿を見る機会が減る不安な中で、活動の様子を、コメントや写真で配信してくださいました。子供たちの様子がよくわかり、園とのつながりを感じることができ、不安が軽減されました。

お迎え時には、子供たちの書いた給食の感想や、その日の出来事や取り組みなどの新聞を作って掲示して下さり、先生方の温かさを感じました。時代や状況に合わせてたくさん工夫して下さり、園と家庭との繋がりを大切にしてくださっていることを感じました。たくさんのお話を聞き取り、子供から園での様子を聞けるよい機会となりました。

○研修や会議を通じて、教職員の思いを共通理解し、教育・保育活動に繋げていけるよう取り組まれています。情報共有や教職員が同じ方向を向くためにも、コミュニケーションや意思伝達を大切にされており、それが子供たちや保護者への安心感や信頼へとつながっていると思います。

○日々多忙な中、各行事での感想を全職員が目を通して聞けると聞き驚きと感銘を受けました。保護者の意見を理解していただけるよう、ご尽力に感謝いたします。

長男のプレ保育から長年にわたり、大変お世話になりありがとうございました。「みんなの先生でみんなのこどもを」という幼稚園の思いを常に感じながら、親子で毎日安心して通わせていただきました。

人と人との繋がりを大切に信頼関係を築くこと、そしてたくさんの方のコミュニケーションにより、豊かな心が育まれたと感じております。
先生方の日々の努力や工夫により、整った教育環境で過ごさせていただいたことに感謝申し上げますとともに、今後のとよなか文化幼稚園の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

令和3年度 学校評価について

学校関係者評価委員会において、数多くの資料をもとにとよなか文化幼稚園の教育理念・教育目標等改めて再確認させて頂きました。評価は以下の通りです。

評価項目（1）

発達が様々な子供達を保育する中で細やかな日案・週案・月案が作成され、子供の発達を促すと共に様々な経験ができるようカリキュラムを考えて下さっていました。また、学年・クラスを越えた情報共有を行うことによりその時々ニーズに合った保育を行うことができ、更に充実した教育内容の実施に繋がっているように感じられます。

評価項目（2）

保育者が与える、手を差し伸べるのではなく、自主性を重んじ子供主体で活動できよう意識して取り組まれていました。また子供達で話し合っていて決めている事も多く、子供達自ら考え行動する文化が根付いています。

評価項目（3）

来園機会が少ないため年度始めオンラインでのクラス顔合わせや、活動内容の写真配信など幼稚園での園児の活動内容が分かるよう工夫されています。

評価項目（4）

内部・外部研修、自己評価や学期毎の目標の設定等自己研鑽に励まれています。尚、経験の浅い先生に関しては学年主任の先生がその都度フォローし、対応方法の共有等しっかりと統括しています。

評価項目（5）

その都度保護者に対しアンケートを実施し、積極的に保護者の意見を取り入れ教育・保育の充実に活かされています。

とよなか文化幼稚園は様々な体験を子供達に経験させてくれる幼稚園の為、先生方は日頃から多くの時間を子供達のために割いて下さっていますが、子供達降園後も報告書の記入や会議実施等保育をより良くするための努力が随所に感じられました。

「とよなか文化幼稚園に入園したら、保護者も共に入園する心積もりで」という園長先生のお言葉にもあるように、例年は父兄も非常に充実した園生活となりますが、2020年以降はなかなか思うように活動ができませんでした。5月コロナが5類感染症へ位置付けされるのを機にまた保護者参加の行事が復活し、交流が深められることを期待します。

「みんなの先生でみんなのこどもを」という保育理念が根底にありますので安心感があります。昨今、バスの事故や保育中の様々な事案が報道されておりましたが、貴園においては日頃から危機管理を徹底されているので心配することなく子供を通わせることができました。中学生になる子供がおりますが未だに「ようちえんは楽しかった」と申します。様々な面において変化の多い時代ですが、今後も「こどもが楽しいのが1番」を大切に保育して下さる貴園の更なる発展をお祈り申し上げます。9年間お世話になり有難うございました。

令和5年3月
とよなか文化幼稚園保護者

令和3年度 学校評価について

この度は、学校評価委員会に参加させていただき、とよなか文化幼稚園の普段目に見えない日々の取り組みについて、あらためて知ることができる貴重な機会をありがとうございました。

私自身3人の子どもが卒園し、その教育理念や教育目標に共感し理解しているつもりでしたが、その実践には日々の小さな作業の積み重ねがあったのだと有難く思いながらの時間となりました。

毎月のカリキュラム会議・週案・日案記録には、活動の時間割の計画だけでなく、一つ一つの活動のねらい、そのねらいをどのようにどのタイミングで園児に伝えるか、安全に進行するための設備の配置、前の活動からスムーズに移行するために注意することなどが書き込まれており、また赤字で主任以上の先生のアドバイスなどもありました。また日案への落とし込みで終わることなく、必ず担任の先生ご自身による振り返りが行われ、それについて励ましやアドバイスのコメントがありました。

また園全体で共通の思いを持つための全体会議を毎月実施されています。「みんなの先生でみんなの子どもを」という園の思いのもと、担任の先生、学年の先生以外でも園児の名前を覚えてくださり、また子どものささいな状況を知ってくださいます。全体会議では学年間の連携を図るための工夫が施され、活発な意見交換をされています。また朝礼・終礼でさまざまな伝達事項を共有されており、議事録があるため朝礼・終礼に出られなくとも共有できる仕組みがあり、きちんと機能していると感じました。

子どもたちの活動・行事については、「子どもの主体性」という言葉が印象的でした。子どもたちを野に放ち自由に活動させるということではなく、子どもたちの小さな興味関心の芽生えを大切に、また芽吹くための仕掛けを作るよう取り組まれています。同じ活動同じ行事の中でも、その年そのクラスその子どもから発信される興味関心に先生方が寄り添って実現してくださっていたのだと知ることができました。また、ある子どもから出た発信に興味分野の違う子どもも共感し、発信した子どもを敬う環境があると感じます。発信した子どもは自信をもち、他の子どもは自分にできることを探す、そんな相乗効果が出る環境は、担任の先生お一人が保育を行うのではなく、園全体で保育に取り組み、子どもたちに向けた様々な視点を持っているからこそだったと考えます。わが子たちの幼稚園生活を振り返るにつけ、一朝一夕に用意された環境ではなく先生方のPDCAの実践の上にあることを再認識しました。

また、とよなか文化幼稚園では入園時に「保護者の方も入園」するつもりでいてくださるとお話いただきます。令和3年度はコロナ禍真っ只中にあり、また保護者の就労状況も大きく変化してきた年でした。保護者の登園する機会が少ない中でいかに「保護者に入園」してもらいか、大変難しい課題にもオンライン配信システムを利用することを主な手立てとして取り組まれています。特にクラスだよりや特別な活動については写真を多く使って配信し、保護者が子どもたちの幼稚園生活を知る機会を作り、子どもと共有するきっかけづくりとなるよう工夫されています。いかに保護者と一体となっていくか、いかに保護者間のつながりを創出するかを模索し幼稚園全体の課題としてとらえてくださっていることも評価すべきであり、感謝していることの一つです。

昨今、園児が被害者となる事故・事件を耳にしますが、とよなか文化幼稚園では安全面についても最善を尽くされていると感じます。食品アレルギーについては、食べる直前まで何人もの目でチェックがなされます。バスでの登園、遠足時も同様に、複数人によるチェックが重ねられ、また対運転手、対保護者へは、安全だけでなく安心感を与えられるような心得を共有されていました。子どもから避難訓練をした話もよく聞きましたが、訓練では1人の先生がいるいろいろな役割を経験しておくよう工夫されていると伺いました。火事・地震・不審

者侵入、感染症、と数々の対策を拝見し、さまざまな活動や行事も安全・安心な環境があっ
てこそであり、そのためにご尽力いただいていることを知ることができました。

とよなか文化幼稚園では、子どもたちの育ちを一番に考え、教職員の方々、保護者が同じ
方向を向いて一体となるよう日々の小さなことの積み重ねを実践されていると感じました。
基本的な理念・目標は確固たるものとして変えずにその時代その時の目の前の園児に合わせ
た幼稚園であるようご努力されている姿を、たくさんの記録の中にみました。そして、外部
の研修はもちろん各種団体との交流もされており、客観的な視点を持つための活動も大切に
されています。

また、卒園で役割終了ではなく、子どもたちの成長をいつまでも見守ってくださり、地域
の幼稚園として存在してくださることに、幼児期のたった3年だった幼稚園生活にとてつも
ない広がりを感じます。これからもとよなか文化幼稚園から、多くの子どもたちが大きくは
ばたいていくことを祈っています。ありがとうございました。

令和5年3月
とよなか文化幼稚園保護者

令和3年度 学校評価について

先日は学校評価に携わらせて頂き誠にありがとうございました。

先生方から各内容についてのご説明をお伺いし、またそれぞれの資料を拝見させて頂き、とよなか文化幼稚園の思いときめ細かな対応がしっかりされていることに安心感を感じることが出来ました。貴重なお時間ありがとうございました。

それでは、先日、先生方から評価項目などについての内容の説明をお伺いし、その評価項目について回答をさせていただきます。

各クラス毎の月案、週案、日案を先生方が作成され、また、その日ごとの子供たちの成長に応じた対応などが細かく記載され、さらに反省点や今後の課題も記載されているのを拝見し、子供たちの成長に応じ、また、教育も充実していると感じられました。

また、主体的な遊び環境などについても各クラスごとに目標をもって、一人の子供たちの成長や周囲に対する関心なども感じられるものがありました。

また、給食などでのアレルギー体質の方への対応もしっかりしており、一人の先生で確認するのではなく、複数の先生方でチェックをし、間違いがないようにするなどの工夫がされておられました。

そして、先生方から説明で、各クラスごとにどのような植物を植えるのかをみんなで話し合い、ともに主張し合うなど個々の考えを言い合える力を大切にしたりする環境などが尊重させてと感じられました。

次に、コロナ禍で制限された中で、子供たちと触れ合う機会が少なく、子供たちの園での生活や野外活動などでの様子について、写真やコメントなどをオンライン配信を使用し、子供たちの成長がよくわかるようにと、そういった取り組みが良かったと感じられました。

次に、園内研修などについてですが、他の園や小学校などと情報を交換はしたり、各研修での内容を園全体で把握し、それぞれの意見交換などをする環境が設けられ、整った環境だと感じられました。

さらに、各行事ごとに保護者アンケートなどから今後の改善点が分かりやすく記載され、園や子供たちの対する思いが感じられました。

今後も子供たちや保護者にとってさらに魅力あふれるとよなか文化幼稚園であり続けて下さい。

ありがとうございました。